

抑制の深さの検査-Bagolini 赤フィルタ棒 : red filter ladder : による方法(深さの検査)

目的
抑制暗点の深さの定量

準備物 固視灯・ Bagolini 赤フィルタ棒(Bagolini red filter ladder) 参考)金谷まり子:視能矯正マニュアル P155
不二門尚・斎藤純子訳:プリズムと斜視 P69

被検者に明室で 5 ~ 6 m (HAAG-STREIT 社の場合は 30 cmと記載あり)に位置した固視灯を見るように指示する



注意!
No.17 は殆ど完全な遮断なので除外している製品もあるが、正式には 17 段階。

画像は会社の製品紹介より

但し、8 番までの明るいものを用いると固視眼上のみならず斜視眼上にフィルタを装着しても複視を引き起こすことがあるので、術後複視の評価の為だと思いが Bagoliniは固視眼が変わらない様に斜視眼にフィルタを置く事を推奨している。
プリズムと斜視 P69 より
でも、純粋に深さを調べるならフィルタは固視眼では?

固視眼に赤フィルタ棒を装着した場合

固視眼が交代しないように注意するとなっているが、パンダが思うに交代抑制でない限り固視交代するという事は抑制が取れたという事だよな。

固視眼前に赤フィルタ棒を装着させる



例) **赤色光のみ見える!**

健眼の光だね。

No.1 から順に白色光が赤色光の隣に知覚されるまで赤フィルタの濃さを増やしてゆく

* 右眼に赤フィルタ棒を装着した場合

例) **No.17(16)にてても白色光が見えない!**

例) **No.5にて白色光が見えた!**

暗室にて同様に行く

暗室の方が両眼分離効果が強く、日常視より離れるので抑制がとれやすくなると考えられる。

検査不可

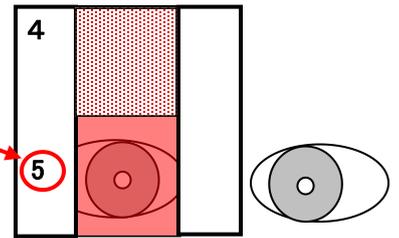
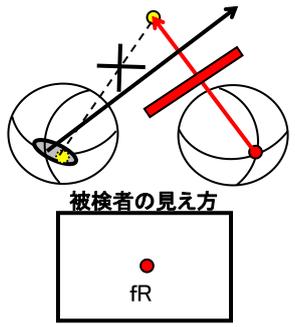
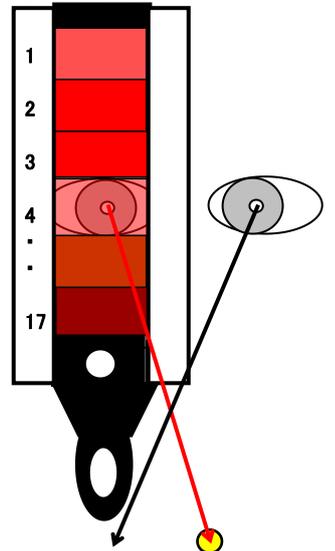
白色光が見えた時の赤フィルタ番号が抑制の深さ(単位はNo.)

記載例) 赤フィルタ棒 右眼に装着
Leye(sc) : **抑制の深さNo.5**

fixation switch diplopia(固視眼固視にて複視-、斜視眼固視にて複視+)となることがあるので、左右眼それぞれを固視として検査した方がよいとのこと。視能矯正マニュアル P155 より
その時、斜視眼の固視の固定に注意!

斜視眼を固視にして同様に行く

例)左眼内斜視 抑制の深さNo.5



正常対応であるならば、内斜視の場合、同側性に外斜視の場合、交叉性に出現するはず。

補足
抑制除去訓練
白色光を自覚した時の赤フィルタ番号(又は同じ程度の濃さの赤フィルタ)を装着して光源を見てもらい徐々に赤フィルタの濃さを減らしても複視が自覚できるようにさせる。